

チーム医療：NST回診（栄養サポート委員会）

一概要一

病院長より、患者の入院中の楽しみとして重要な位置を占める病院食について、「日本一美味しい病院食」を目指すよう依頼があり、当委員会の柱の一つとなっている。

また、外来レベルの「術前栄養サポート」も患者の体力維持、術後早期回復、在院日数短縮、費用削減のために重要と考えられ、当委員会の柱の一つとなっている。2017年度の総NST回診件数は、りんくう総合医療センター565件、泉州救命救急センター299件であった。

現在、栄養サポートチーム加算を算定できるようになっている。これには、長年のNSTの各メンバーによる努力が大きい。保険医、看護師、薬剤師、管理栄養士それぞれが資格を有し、共同して診療を行うことが必要であり、栄養評価指標のための検査環境を整備し、患者説明の充実を果たし、患者と顔を合わせる回診内容を模索し、言語聴覚士等の協力を仰ぎ、各方面からの協力により成り立っている。本年度は、合計411件の栄養サポートチーム加算を算定できた。

当院は日本静脈経腸栄養学会の栄養サポートチーム専門療法士認定教育施設であり、2017年度はNST専門療法士研修会を1回開催し、計3名の参加を得た。

また、当院は泉州地区NST研究会の代表世話人を務めてきている。さらに、日本静脈経腸栄養学会のNST専門療法士認定制度において泉州地区NST研究会が認定されており、参加することによって2単位を取得できるようになっている。2017年11月11日には第25回、2018年3月10日には第26回泉州地区NST研究会が行われた。

院内ではNST勉強会を行い、栄養の基礎知識や最新情報の提供を行っている。栄養サポート委員会には、栄養アセスメントグループ、マニュアルグループ、セミナー学習会グループ、摂食・嚥下ワーキンググループが存在し、それぞれ真剣に取り組んでいる。

当院NSTにおける現在の問題点と新しい流れ

1. 低栄養で嚥下にかかわる筋肉の機能低下が起こると嚥下困難となり、低栄養がさらに進むという悪循環に陥り、誤嚥性肺炎も起こりうる。摂食・嚥下グループを中心に、嚥下の評価を行い、栄養を維持して嚥下筋の機能低下を防ぎ、また改善させ、悪循環からの脱却を目指している。
2. ERAS(Enhanced recovery after surgery)プログラムが広く行われるようになり、術後早期にリハビリを行うようになって

きたが、低栄養状態でいきなり行うリハビリは、かえって筋蛋白の分解をまねく。リハビリは栄養状態の維持とあわせて強度を上げていくのが理想的である。

3. 侵襲の大きな手術に先立って、術前に栄養状態を持ち上げ、術前リハビリで筋力アップをはかると、術後の回復が早く、合併症も減少する等の報告がなされてきている。術前に介入するために、外来レベルのサポートを目的とし、他分野(リハビリ、全身麻酔・術前のチェック・管理、薬剤管理、口腔ケア、精神サポート、医療事務等)との協力体制を構築することが重要である。
4. 脂肪製剤の利用は、糖質中心の栄養輸液に比べて単位水分あたりの熱量が高いために、水分負荷の軽減となり、心不全や腎不全時に利点があり、ブドウ糖に比べてCO₂産生量が少ないために呼吸不全に利点があり、インスリン非依存性であるために耐糖能低下時に利点がある。さらに、脂肪は心筋や骨格筋のメインのエネルギー源であり、心疾患、リハビリを要する患者には重要と考えられる。脂肪の投与が細網内皮系をブロックして免疫に影響を与えるとの報告もあるが、投与スピードをコントロールすれば問題ないと考えられている。当院では、脂肪乳剤の使用がまだまだ普及しておらず、啓蒙活動が必要と考えられる。

一実績一

NST回診件数

	チームりんくう	チーム救命
4月	47 (33)	27
5月	37 (19)	35
6月	70 (58)	37
7月	38 (34)	22
8月	35 (30)	26
9月	58 (40)	9
10月	51 (37)	22
11月	28 (14)	27
12月	59 (51)	38
1月	55 (28)	30
2月	42 (31)	10
3月	45 (36)	16
合計	(565)	(411)

※()は加算件数

NST専門療法士研修会

【院外】

	開催期間	施設名	職種/人数
〈前期〉	6月1日～6月9日	市立貝塚病院	看護師/1名
		医療福祉センター すくよか	看護師/1名
		浜寺中央病院	管理栄養士/1名

泉州地区NST研究会

開催日	開催内容	講師	参加者数
第25回 11月11日 (土)	＜一般演題＞		45名
	『横山病院における居宅療養管理指導の取り組み』	医療法人橋会 横山病院 栄養科主任 茶園 晶子 先生	
	『当院の栄養評価の変更 —MNA—SFとCONUT法を用いて—』	市立岸和田市民病院 栄養管理部 金谷 幸 先生	
	『超高濃度栄養食テルミール アップロードの使用経験』	大阪労災病院 栄養管理部 西條 豪 先生	
	『りんくう総合医療センター NST2017』	りんくう総合医療センター 栄養管理科 宇野 妙子 先生	
＜特別講演＞			
	『経腸栄養の合併症とその対策』 —胃内環境・腸内環境からみた 合併症対策とは—	滋賀医科大学医学部 附属病院栄養治療部 部長 佐々木 雅也 先生	
第26回 3月10日 (土)	＜一般演題＞		45名
	『看取りの現場から ～グリーフケアと食事』	医療法人弥生会 給食室長 栗栖 裕幸 先生	
	『継続的な運動療法とBCAA配合 栄養剤による、回復期リハビリテ ーション高齢者のADLの改善が えられた症例』	医療法人晴心会 野上病院 栄養管理部 主任 里村 修司 先生	
	『白井病院と地域の関わり』	医療法人白卯会 白井病院 栄養科 西野 修平 先生	
	『当院における褥瘡・NST委員会 (栄養チーム)の取り組み』	りんくう総合医療センター 看護局 褥瘡・NST委員会	
＜特別講演＞			
	『多職種で取り組む癌治療と栄 養』	八尾市立病院 外科部長 松山 仁 先生	



—今年度の成果と反省点—

当院は日本静脈経腸栄養学会の栄養サポートチーム専門療法士認定教育施設であったが、認定医不在となったため資格停止状態となった。幸い、2015年度に委員長飯干が認定医資格を得ることができ、再び資格を得ることができた。今後も資格更新のために厳しい条件があり、認定施設維持のための整備を怠らないことが反省点である。

—来年度への抱負—

常に知識の吸収、技術の研磨を怠らないよう、学会発表に積極的に参加していきたい。